

# 四国・水こぼれ話

Water Information Saloon Shikoku

## 談話室 Vol. 16

### 八幡浜市における水に関する話題

愛媛県 八幡浜市長  
たかはし えいご  
高橋 英吾



#### 1 はじめに

八幡浜市は、日本一細長い佐田岬半島の基部に位置し、愛媛県南部の産業、経済、文化の中核都市であります。宇和海と瀬戸内海の2つの海域に臨み、四国の西の玄関口である八幡浜港を有し、豊後水道（豊予海峡）をはさみ九州に対しております。

#### 2 河川と自然災害の状況

行政面積132.96km<sup>2</sup>の中で、24水系の2級河川がありますが、河川延長は短く、流域面積も狭く、急流となり海へ流れ出るため、豪雨による洪水等の自然災害は少なく、昭和18年の800ミリを越す豪雨災害以後、約半世紀にわたり甚大な被害は記録されておりません。

昨年、県内を襲った台風は6個を数え、多数の犠牲者と土砂崩れ、家屋損壊、河川の決壊、氾濫などをもたらし、深い傷跡と危機管理など大きな課題を残したところであります。

#### 3 命の水にちなんだ話

温暖な気候による天日に加え、海からの反射と石積みの照り返しによる「3つの太陽」が高品質の

みかん生産を可能とし、日の丸、マルマ、マルカなどのブランドとして日本一の産地を誇り柑橘産業をリード。これらの産業振興には、生命と同じく「太陽と水」は命の源であるが、昭和42年には南予圏域は大旱ばつに見舞われ井戸は枯れ、水道の時間給水、農家は柑橘園地への灌水により枯死を命がけで守ったと伝えられております。

このことを契機として、「南予の砂漠を追放しよう」という住民の悲痛な叫びをうけ、旧建設省直轄による野村ダムの建設と並行して着手した農水、上水の共同事業としての南予用水事業が平成8年度完成により、愛媛県南予地域一帯に「命の水」を潤し、生活文化の向上と歴史輝く水資源となっております。

野村ダムをはじめ河川の水資源は、市民の安全で安心な暮らしと地場産業の振興には欠かすことの出来ない資源であり、治水・環境をはじめとした森林保全対策等を推進することは極めて重要な課題であると考えます。



八幡浜港からの八幡浜市街地全景



平成16年台風16号による国道197号、千丈川冠水状況



野村ダム南予用水取水塔